

資料③：アンケート・ヒアリング調査結果
について（中間報告）

平成 28 年 12 月

南 城 市

1 調査概要

- 網形成計画策定の基礎資料として、利用者の視点から見た公共交通の問題点や、要望、将来公共交通網に関する意向等を把握するため、**市民を対象としたアンケート調査**と**事業所を対象としたヒアリング調査**を実施しました。

表 1.アンケート及びヒアリング調査の概要

項目	市民アンケート	事業所ヒアリング
調査目的	公共交通の利用状況や、市民の視点から公共交通の問題、要望、将来公共交通網に関する意向等を把握するために実施	事業所の視点から公共交通の問題、要望、将来公共交通網に関する意向等を把握するために実施
調査方法	行政区長による訪問配布・訪問回収、各行政区で20部×3人分を配布	調査員の訪問による聞き取り
調査対象	南城市在住の市民	交通事業者、交通拠点の利用者（レンタカー会社、旅行代理店等）、南城市内の公共交通の立ち寄り先（商業施設、医療機関等）
配布数/依頼数	68行政区×20世帯×3票＝4,080票	交通事業者：6箇所、交通拠点の利活用社：9箇所、公共交通の立ち寄り先：9箇所 計24箇所
回収数/協力箇所数	2,018票	16箇所
回収率	49.5%	67%

表 2.ヒアリング調査対象の概要

事業者ヒアリング調査														
区分	交通事業者				交通拠点利用先				公共交通立ち寄り先					合計
	バス	タクシー	旅客船	小計	観光バス	レンタカー	旅行代理店	小計	商業施設	医療施設	観光施設	高校	小計	
依頼	3	2	1	6	2	4	3	9	2	1	3	3	9	24
実施	3	0	1	4	0	2	2	4	2	1	2	3	8	16

なお、調査対象と把握項目の対応は、下記の通りになります。

表 3.調査対象と把握項目

区分	把握項目	市民アンケート調査	事業者ヒアリング調査										
			交通事業者			交通拠点利用先			公共交通立ち寄り先				
			バス	タクシー	旅客船	観光バス	レンタカー	旅行代理店	商業施設	医療施設	観光施設	高校	
属性	性別、年齢等	●											
移動実態と公共交通の利用状況	外出時の公共交通の利用状況	●											
	外出状況	●											
乗り継ぎ等の実態	乗り継ぎ利用の有無、手段	●											
	乗り継ぎ場所	●											
	乗り継ぎの問題点	●											
	バス停での駐輪場等整備時の利用意向	●											
公共交通の問題点・要望	公共交通を利用しない理由	●											
	事業における問題								●	●	●	●	
	現在の公共交通網見直しの必要性				●				●	●	●	●	
将来の公共交通網	南部東道路等整備による地域、事業所の変化		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	市外でネットワーク形成が必要なエリア	●			●				●	●	●	●	●
	市外とのルート等のアイデア	●			●				●	●	●	●	●
	市内でのルート等のアイデア	●			●				●	●	●	●	●
	その他アイデア	●			●				●	●	●	●	●
新たな交通拠点	市民向けの機能・施設	●	●	●	●				●	●	●	●	●
	観光客向けの機能・施設		●	●	●	●	●	●	●		●		
	交通拠点への進出可能性		●	●	●	●	●	●	●	●	●		
公共交通との連携	公共交通と提携した取組状況、意向						●	●	●	●	●		
	公共交通との提携のアイデア						●	●	●	●	●		
自由意見		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

2 調査結果

2.1 属性

市民アンケート

- 回答者の男女比はちょうど50：50となっています。
- 年齢構成は、「60代」が26.7%、「50代」が19.9%とこの2つの世代で46.6%と約半数を占めています。
- 居住地は、「大里」が31.6%と最も多く、次いで「玉城」24.4%、「佐敷」21.9%、「知念」20.8%、「つきしろ」1.4%の順になっています。
- 運転免許の保有率は高く、87.7%の方が「運転免許を持っている」と回答しています。

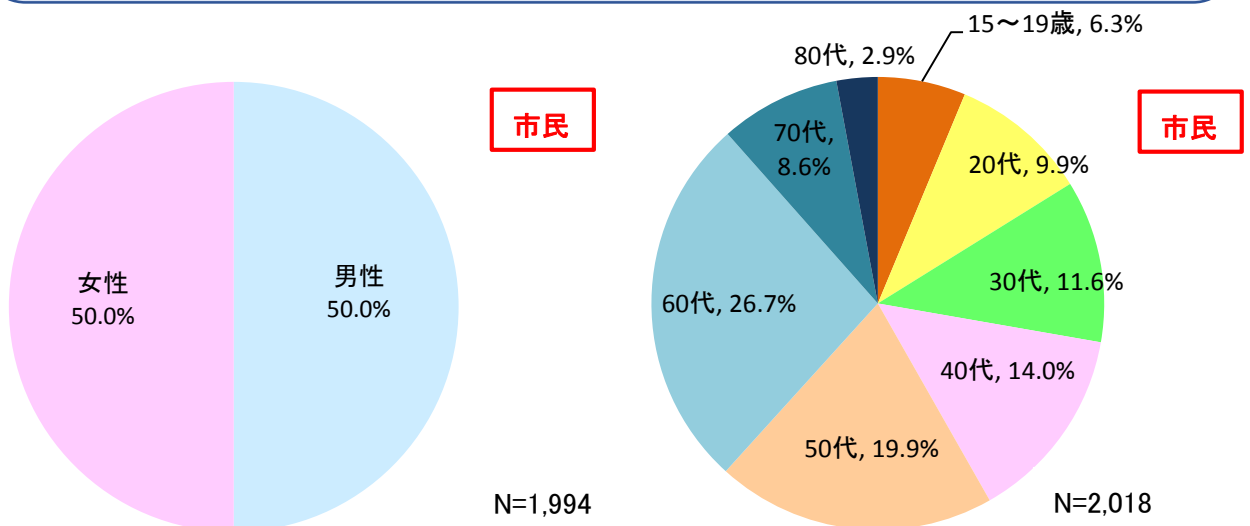


図-1.アンケート回答者の男女比

図-2.アンケート回答者の年代構成

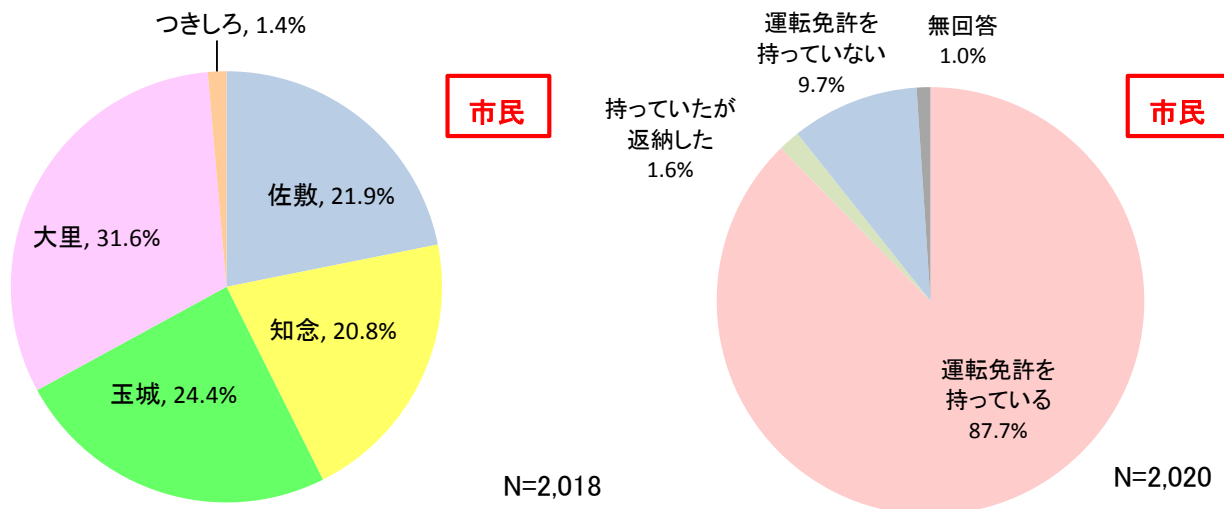


図-3.アンケート回答者の居住地

図-4.アンケート回答者の運転免許保有状況

2.2 移動実態と公共交通の利用状況

(1) 外出時の公共交通の利用状況

市民アンケート

- 84.7%の方は外出時に「公共交通を利用することはあまりない」と回答しており、多くの方はクルマ等の他の手段で外出しています。
- 「優先的に公共交通を利用している」方はわずか2.8%にとどまります。

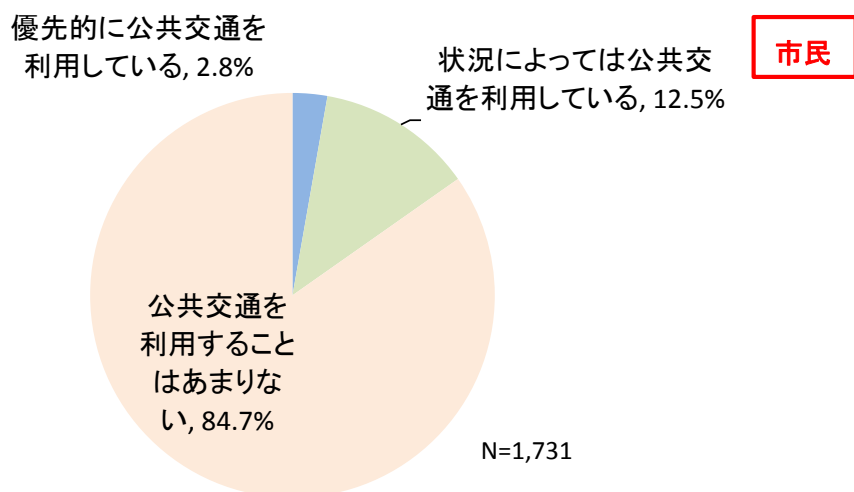


図-5.外出時の公共交通の利用状況

(2) 外出状況

市民アンケート

- 外出目的別の移動手段をみると、「クルマ(自分で運転)」の割合が非常に高く、通勤で88%、買い物で84%、通勤で84%、買い物で84%、その他私用で77%、通学でさえも50%の割合を占めています。
- 公共交通の利用割合は低く、通学で「路線バス」が15%利用されているのが目立つ程度です。

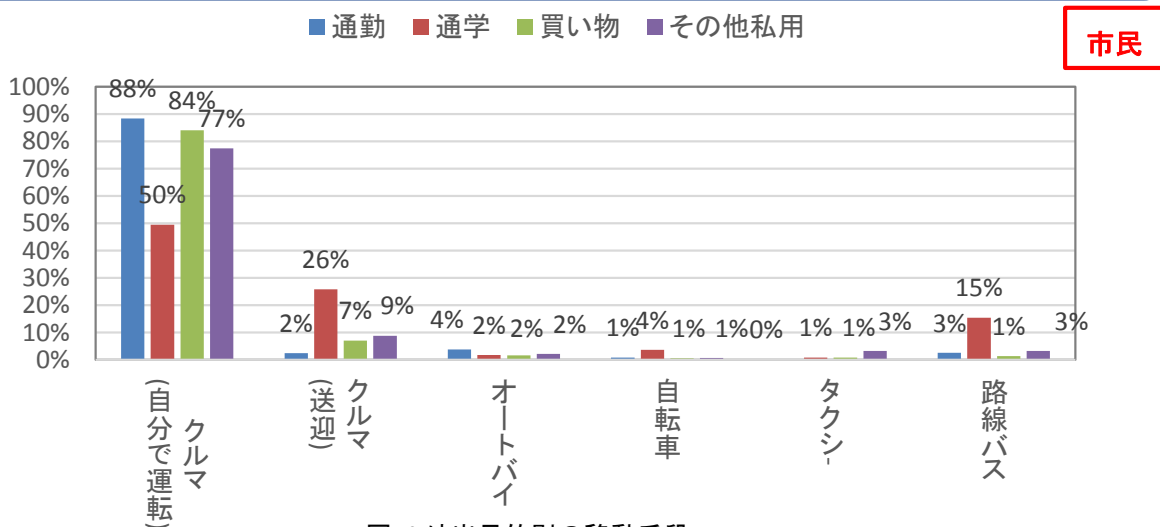


図-6.外出目的別の移動手段

2.3 乗り継ぎ等の実態

(1) 乗り継ぎ利用の状況

市民アンケート

- 公共交通を利用している方で、乗り継ぎ利用している方は、約4割を占めています。
- 乗り継ぎの組み合わせとしては、「路線バス相互」が55.6%と半数を占めています。
- その他では、「自家用車と路線バス」、「路線バスとモノレール」などが多くなっています。

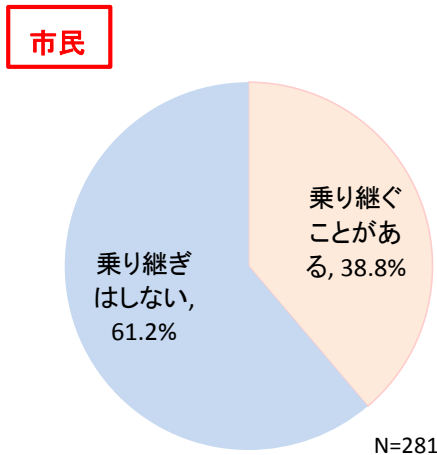


図-7.公共交通利用者の乗り継ぎ利用の有無

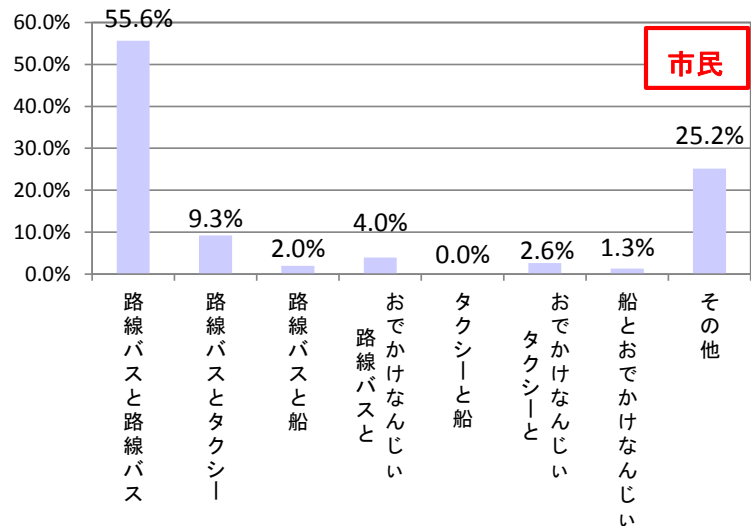


図-8.乗り継ぎの組み合わせ

(2) 乗り継ぎ場所

市民アンケート

- 乗り継ぎ場所としては「馬天入口バス停」、「新里入口バス停」など佐敷地域で運行本数の多いバス停が利用されています。
- その他は、市外がほとんどであり、「那覇バスターミナル」や、「首里駅」、「与那原バス停」などが多くあげられています。

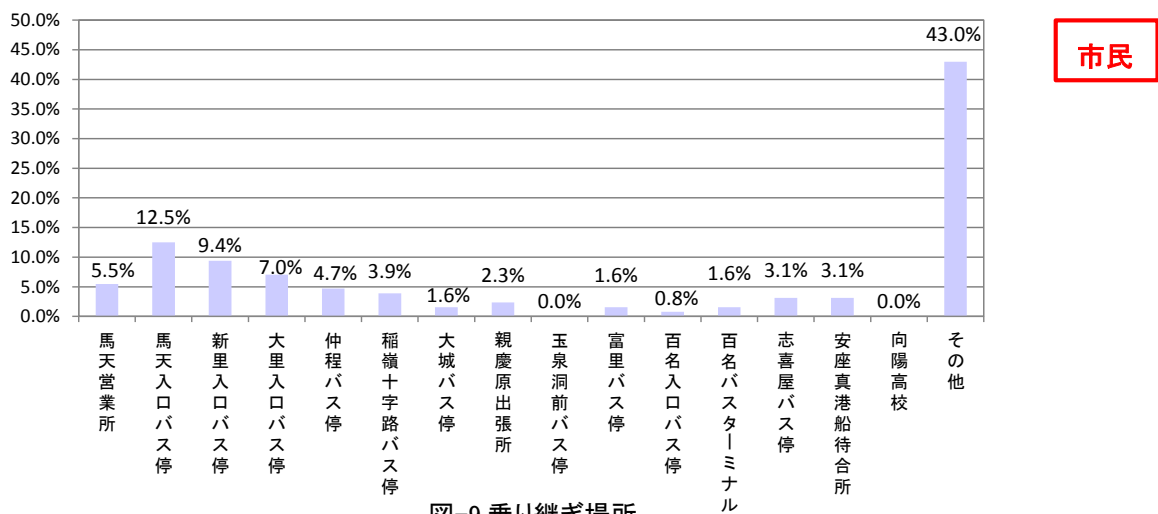


図-9.乗り継ぎ場所

(3) 乗り継ぎ利用の問題点

市民アンケート

●乗り継ぎの際の問題点として、「次の手段までの待ち時間が長い」が 30.8%と最も多く、次いで「外出先に着くまでに時間がかかる」17.0%、「乗り継ぎのタイミングが合わず逃してしまう」15.1%の順に多くなっています。

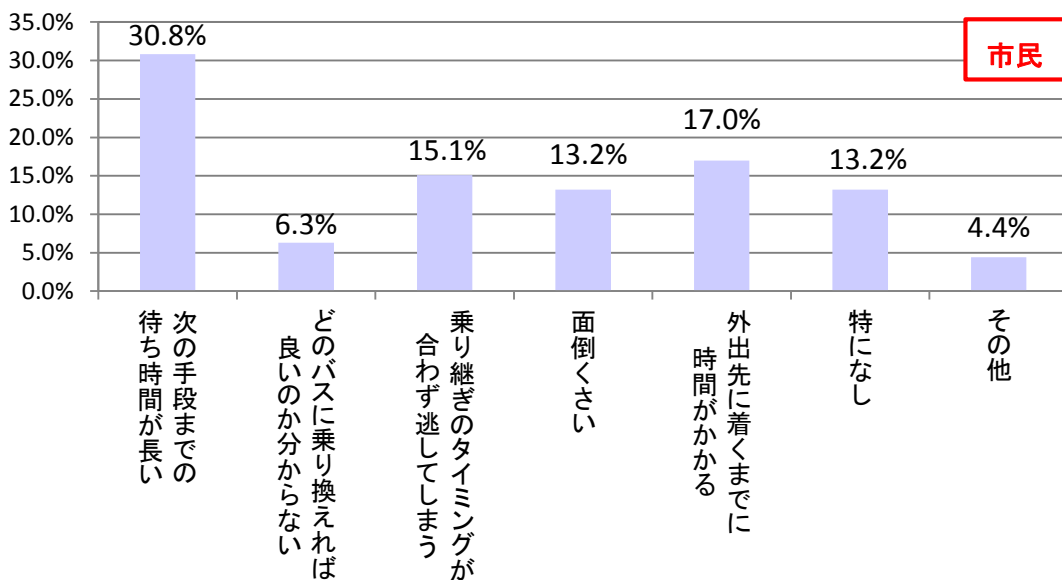


図-10.乗り継ぎ利用の問題点

(4) バス停での駐車場・送迎場所整備時の路線バス利用意向

市民アンケート

●バス停での駐車場や送迎場所整備時の公共交通の利用意向は、「わからない」が半数と最も多いものの、1割の方は「増えると思う」と回答しています。

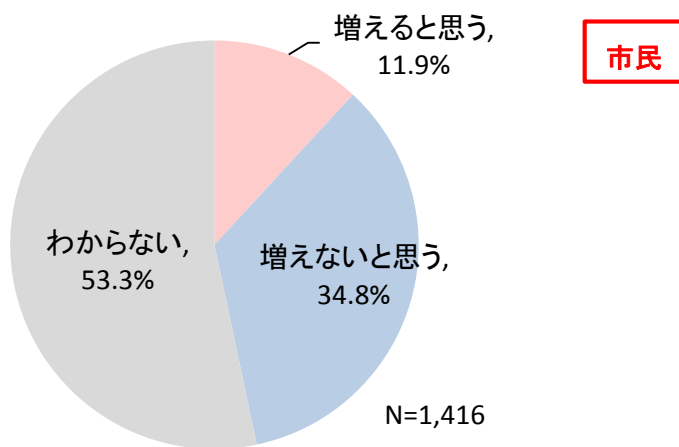


図-11.バス停での駐車場・送迎場所整備時の路線バス利用意向

2.4 公共交通の問題点・要望

(1) 公共交通を利用しない理由

市民アンケート

- 公共交通を利用しない理由として、「行きたい時間に利用できないから」が52.5%と過半数を占め、その他では「便が少なく待ち時間が長いから」36.6%、「利用するのが面倒」29.2%、「時間が読めず予定を立てにくいから」28.2%の順に多くなっています。
- その他の理由としては、「自家用車を持っている」が多くあげられています。

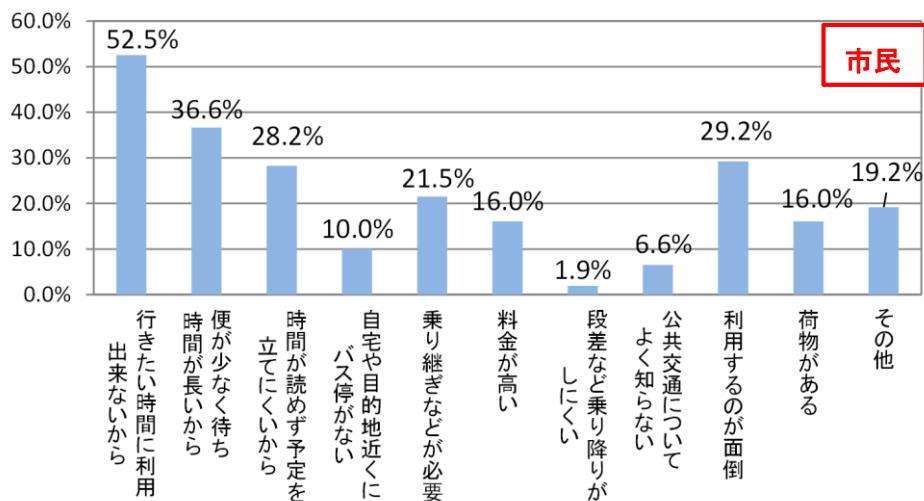


図-12.公共交通を利用しない理由

(2) 事業における公共交通に関する問題

事業所ヒアリング

- サンプル数は少ないですが、事業における公共交通の問題として「利用者向けに広い駐車場が必要」、「送迎する必要がある」、「公共交通での来訪を案内しづらい」などがあげられています。

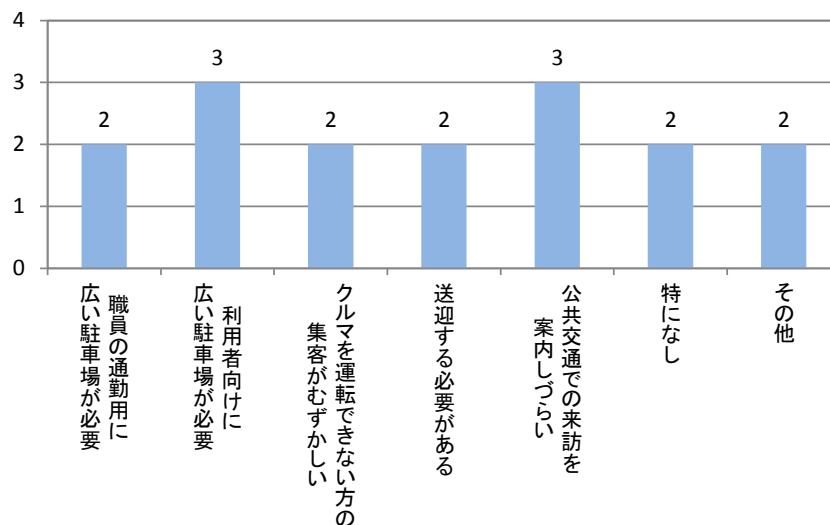


図-13.事業における公共交通に関する問題

(3) 現在の公共交通網見直しの必要性

事業所ヒアリング

●現在の公共交通網の見直しについて、見直しの必要はないと回答した事業所はなく、3事業所が「とても必要」、4事業所が「どちらかといえば必要」と回答しています。

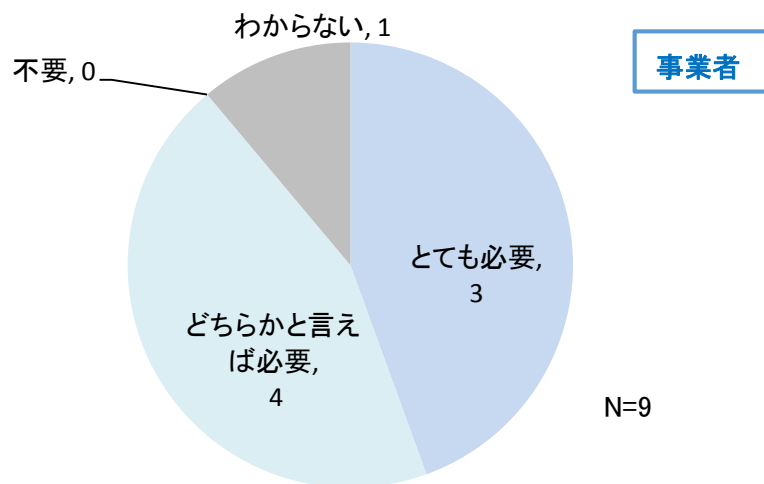


図-14.現在の公共交通網の見直しの必要性

2.5 将来の公共交通網

(1) 南部東道路等整備により想定される地域、事業所の変化

事業所ヒアリング

- 南部東道路等整備により、想定される地域の変化として、観光客の増加とともに、市内の渋滞を懸念する意見があげられている。
- その他では、転入者の増加や、交通拠点の形成、市の活性化などがあげられています。
- 事業所の変化としては、交通事業者の路線バスの再編、旅行代理店の新たなコース設定、宿泊施設の集客増、高校の進学希望者の増加などが期待されています。

事業者

表 4.南部東道路等整備により想定される変化

項目	内容
地域の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客の増加（4） ●那覇市内のアクセスが容易になり、市内渋滞が予想される。（4） ●拠点となるので人が集まる（2） ●那覇市への通勤が便利になる。 ●南部において中心となる大きな交通拠点のひとつになる。 ●中核地は海拔の高い場所に位置するため、移住者が増える ●新興住宅地としてアパートやマンションが増加 ●南城市活性化が図れる。 ●物の流通が増える。 ●渋滞している南風原・与那原への交通が分散される。
事業所の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●拠点ができ路線の再編がすすみ、効率化が図れる。（バス会社） ●返却時間の短縮（レンタカー会社） ●観光ルート of 新たなコースが想定される。（旅行代理店） ●ユインチホテル南城さんへの送客が増える。（旅行代理店） ●観光客増で集客見込める。現在、新館（客室）増設工事中。（宿泊施設） ●中核地がどのようなになるのかわからないので、今のところは特に変化はないと思う。（商業施設） ●1本で通学できるようになれば便利。その場合には、本校に進学希望が増える可能性がある。通学の便が悪いため、他校に進学している生徒の選択肢が増える。（高校）

(2) 市外でネットワーク形成が必要なエリア

- 市外で南城市とネットワーク形成が必要なエリアとして、**市民アンケート**では「那覇空港」、「那覇新都心」、「那覇市中心部」の3地区に集中しています。その他では「東浜マリンタウン」、「豊崎」、「兼城」へのニーズが高くなっています。
- 自由回答では、最寄りモノレール駅までのバス、イオン南風原等のスーパーまでのバス、高校までのバスなどがあげられています。
- 事業所ヒアリング**は、「那覇空港」と「那覇市中心部」にニーズが集中し、その他では「東浜マリンタウン」がやや高くなっています。自由回答では、空港から主な観光地を回るルートという意見もありました。

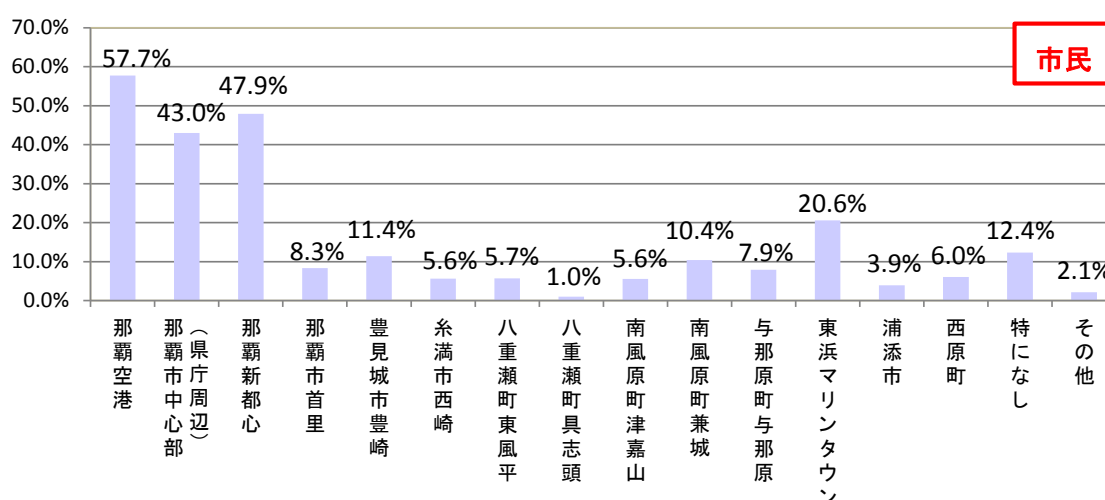


図-15.市民が市外でネットワーク形成が必要と考えるエリア

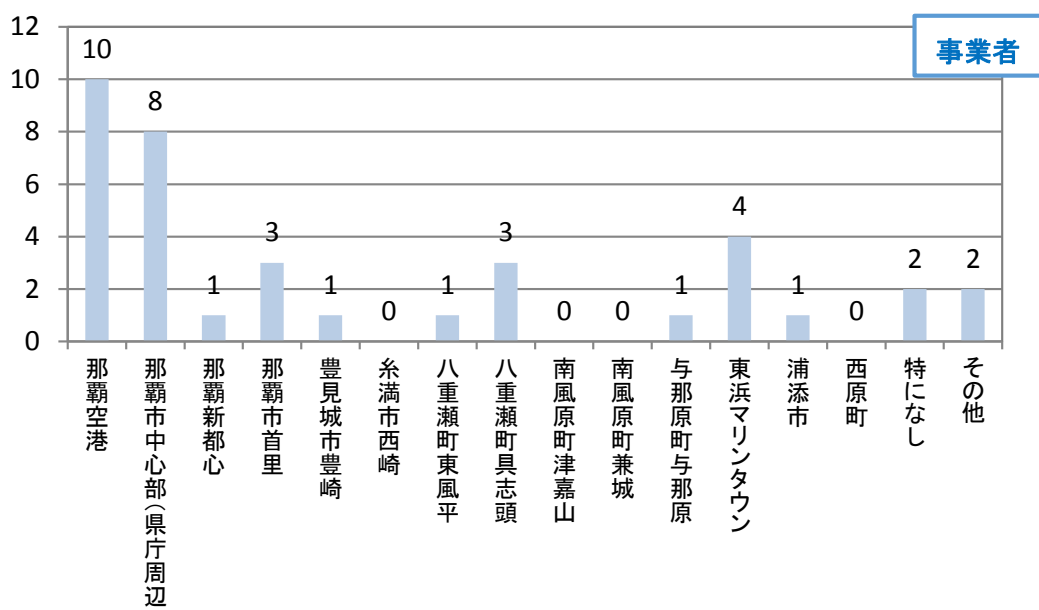


図-16.事業所が市外でネットワーク形成が必要と考えるエリア

(3) 市内で公共交通が立ち寄ってほしい施設等

- 市民アンケート**では、市内で公共交通が立ち寄って欲しい施設として、イオンタウン南城、アトール、ザ・ビッグ等の商業施設や、奥武島、シュガーホール、病院、役所などが多くあげられています。
- 事業所ヒアリング**では、長生薬草～安座真港・さんさんビーチ～斎場御嶽～つきしろのカフェ～おきなわワールドなど海岸沿いを巡るバスや、玉城地域内のバス路線充実などがあげられています。

(4) その他のアイデア

- 市民アンケート**では、モノレールの整備、南城市一周路線バスの導入、宿泊施設から観光地への直行バス、飲食できる遊覧バスの運行、自転車の活用等のアイデアがあげられました。

2.6 新たな交通拠点

(1)市民向けの機能・施設

- 市民アンケート**では、市民向けの交通拠点に必要な施設・機能として「売店・コンビニ」、「レストラン・カフェ等」、「休憩所・待合室」、「ATM」へのニーズが高くなっています。
- 事業所ヒアリング**では、「バスの運行情報板（リアルタイム）」、「バスの定期券販売所」、「タクシー乗り場」、「ATM」等の整備の必要性が高いと考えています。自由意見では、ランニングコストを考慮した施設・機能の整備、乗り継ぎの待ち時間が苦でなくなるための施策（商業施設や図書館等の整備）などがあげられました。

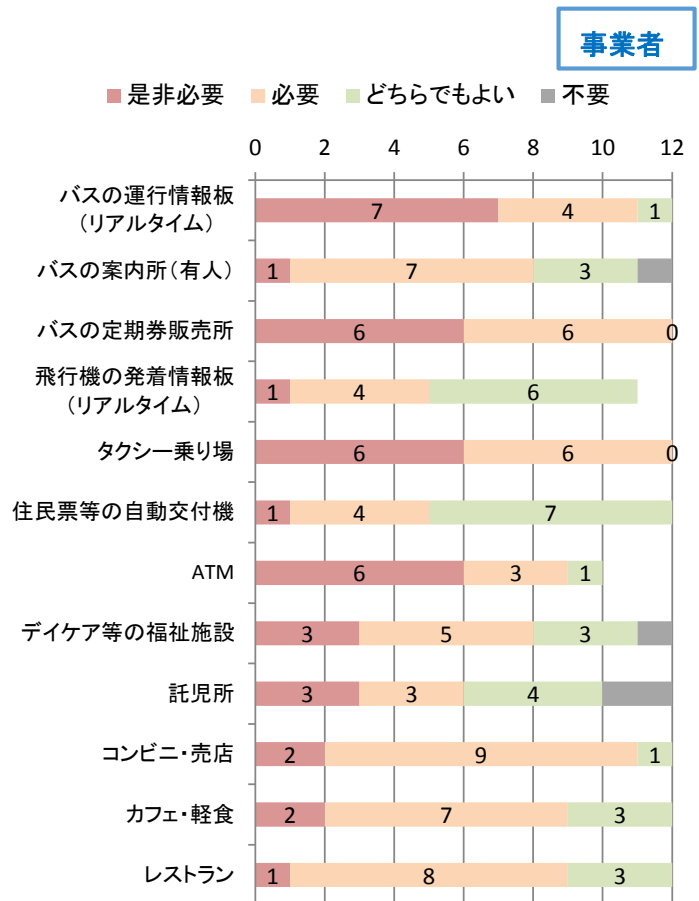
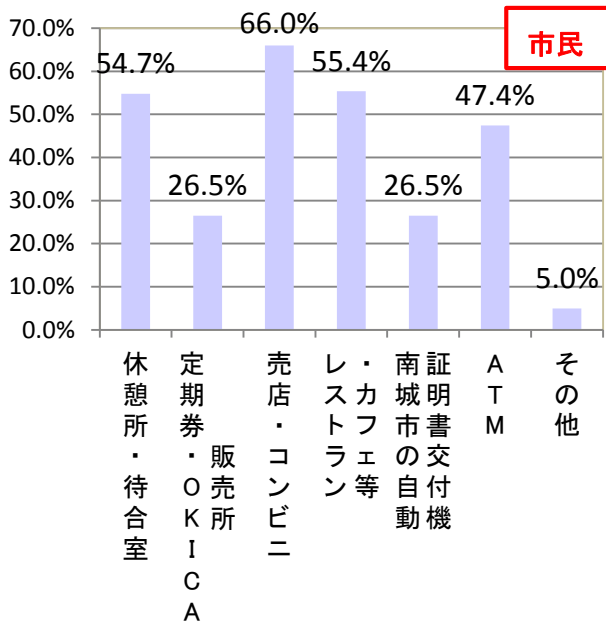


図-17.交通拠点に市民向けに必要なと考えられる機能・施設(左:市民アンケート結果、右:事業所ヒアリング結果)

(2)観光客向けの機能・施設

- 市民アンケート**では、観光客向けの交通拠点に必要な施設・機能として「観光案内所」、「お土産品店」、「宿泊施設」へのニーズが高くなっています。
- 事業所ヒアリング**では、観光客向けの交通拠点に必要な施設・機能として「Wi-Fi 環境の整備」が10の事業所で「是非必要」、2の事業所で「必要」と必要性が高く指摘されています。
- その他では、「バスの運行情報板（リアルタイム）」、「タクシー乗り場」、「観光案内所」、「充電コンセント」が是非必要という回答が多くなっています。
- 事業所ヒアリングの自由意見では、外国人観光客の増加に対応した外貨両替の ATM の設置、レンタカー、レンタサイクルの貸出所の設置場所は、安全面に考慮して設置などがあげられました。

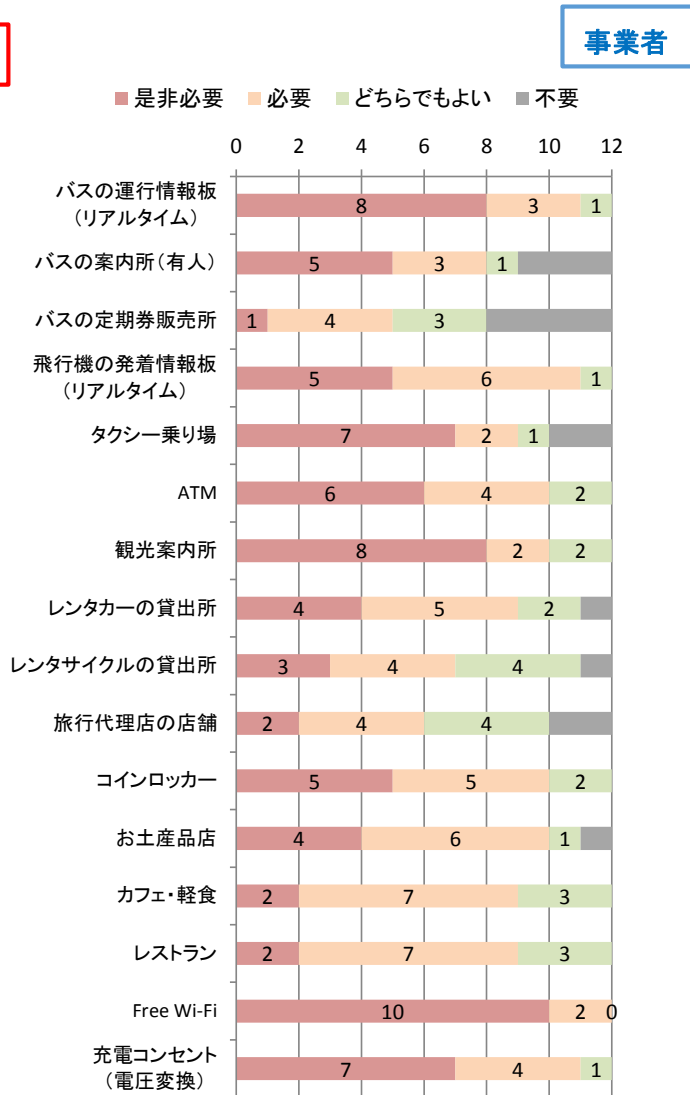
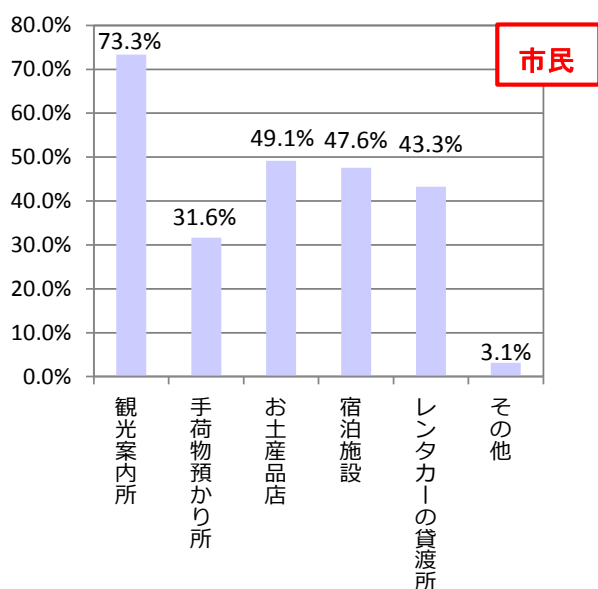


図-18.交通拠点に観光客向けに必要なと考えられる機能・施設(左:市民アンケート結果、右:事業者ヒアリング結果)

～参考 H27 観光客アンケートにおける自由意見～

●料金体系

- ・デマンドバスの一律料金
- ・デマンドバスで、フリーパス(最高額 1,500 円)。
- ・公共交通で乗り降り自由な一日乗車券などがあると利用しやすそう。
- ・交通弱者(子どもや高齢者)の視点が大事。経済的に負担をかけないような取組を実施。

●ネットワーク(市外)

- ・公共交通で空港までの送迎が欲しい。

●情報提供

- ・公共交通機関の情報提供が足りない。(7)
- ・地図や看板を沢山設置してほしい。
- ・公共交通の情報を紙媒体で配布して欲しい。(ホテル等の宿泊施設やがんじゅう駅等の観光施設)(2)
- ・公共交通に関する情報や観光施設までのアクセス情報等、集約した情報の HP をたちあげてほしい。(2)

●その他

- ・幼児の遊べる遊具が充実した公園が欲しい。

2.7 公共交通との連携

(1) 公共交通と連携した取組み状況

- **事業所ヒアリング**では、公共交通と連携した取組として、「おでかけなんじい」と連携した取組などがあげられています。

事業者

- 提携サービスの実施(デマンドバス)
 - ・ 買物をしたお客様に、おでかけなんじいのチケットを配布しており、160件/月利用がある。利用者数は増加傾向だ。【商業施設】 →◎
- 観光地へのアクセス向上(旅行ツアーやプログラム内での取組)
 - ・ 修学旅行生を対象に公共交通を活用したプログラムを行っている。【旅行代理店】 →◎
 - ・ 試験的にデマンド(なんじい)の往復券を差し上げており、今後も継続していきたい。【観光施設】 →◎
 - ・ シャトルバスで空港送迎や地元客向けに日帰りプラン(グランドゴルフ後に食事して帰宅するなど)等の自社プランがある。【観光施設】 →◎

※◎→今後も継続実施

(2) 公共交通との連携の課題

- **事業所ヒアリング**では、公共交通との連携の課題として、定時性の確保や情報提供の充実、公共交通の利用者の増加などがあげられています。

事業者

- 定時速達性の確保が困難
 - ・ 直行バスが定時運行していないと、飛行機への乗り遅れが発生する可能性がある。【レンタカー】
 - ・ デマンドバスは乗合なので、1時間ごとなのは仕方がない。ただし待ち時間が長い場合がある。当店が商業施設なので時間を潰せることはいいと思う。【商業施設】
- 情報提供の不足
 - ・ 観光客は、乗り場等が分からない事が多い。【旅行代理店】
- 公共交通の需要の少なさ
 - ・ 公共交通を利用して来店している方が、ほとんどいないため連携の取組みは優先度が低くなる。【商業施設】

(3)公共交通との連携のアイデア

●**事業所ヒアリング**では、公共交通との連携のアイデアとして、施設の割引特典付与などがあげられています。

事業者

- 南部東道路の活用(那覇空港-南城市中核地直行バス)
 - ・現在、那覇空港→中北部へのリムジンバスは存在するが、那覇空港→南部へのリムジンバスは無い。外国人も増え需要があると思う。(糸満・八重瀬・南城市)。ホテル・ゴルフ場・観光施設【レンタカー】
- 料金体系、提携サービス等
 - ・定期券や回数券の提出で、施設の割引特典をつける【旅行代理店】
 - ・バス路線では難しいが、他の商業施設や企業なども、おでかけなんじいと提携するのを推奨してはどうか。
 - ・なんじい往復券などは、既にパッケージ化されているので、既存のサービスを利用者がどうやったら利用したくなるのかを考えては。【観光施設】
- 交通システム
 - ・デマンドバスの事前登録をなくす。【旅行代理店】
- 情報提供
 - ・観光へもっとPRした方が良い【観光施設】